

令和7年度災害時の外国人市民支援に係る研修の実施業務 実施報告書

令和8年（2026年）3月 （公財）広島平和文化センター 国際市民交流課



令和7年度災害時の外国人市民支援に係る研修の実施業務

外国人市民等の防災意識の向上を図るとともに、日本語で円滑にコミュニケーションできない外国人市民等に対する災害時の支援体制を整えるため、「災害時の外国人支援に係る研修の実施業務」を（公財）広島平和文化センターが受託し実施した。

1 実施内容

(1) 外国人市民のための防災研修

日本で発生する災害に関するストック情報（過去の教育や訓練などで蓄積された情報）が不足している外国人市民に、運動やレクリエーション、体験など、日本語が不自由であっても伝わりやすいツールを通じて、豪雨災害や地震など日本で発生しやすい災害を中心にストック情報を楽しく身に付けてもらい、災害時に適切な避難行動を取ることができるようにするための研修を行った。なお、災害時には日本人、外国人に関わらず互いに協力して命を守る必要があることから、2回のうち1回は市内在住の日本語母語話者も参加できるイベントを実施し、外国人住民とコミュニケーションを取りながら防災を学ぶ場を提供した。

<1回目>

実施日：令和7年12月7日（土）10：30～13：00

会場：広島市古田公民館（西区古江西町19-15）

参加者：外国人住民 10人 ※子ども2人含む（母語：中国語4人、ベトナム語6人）
日本人住民 20人 ※子ども7人含む

内容：外国人住民と日本人住民の混合チームで、防災に関する基礎的な知識を問う「〇×クイズ」や、非常食パンを使った「パン食い競争」、紙に書かれたお題に沿って日用品を組み合わせる「防災借り物競争」に取り組んだ。チーム対抗戦で、各種目の優勝チームには非常食や防災備品の景品を用意した。すべての種目が終了後は、好きな非常食（アルファ化米）を選んでもらい、チーム内で自由にコミュニケーションを取ってもらいながら試食した。

<2回目>

実施日：令和8年2月28日（土）12：00～15：40

※実際の研修時間は13：00～15：00。その他はバスによる移動時間。

会場：広島市総合防災センター（安佐北区倉掛2丁目）

講師：広島市総合防災センター指導員

参加者：外国人住民34人 ※子ども15人を含む

（母語：ベトナム語26人、ヒンディー語3人、ウクライナ語2人、中国語2人、ビルマ語1人）

内容：震度6弱の地震を体験できる「地震体験」、や広島市で発生しやすい「豪雨体験」、建物内に蔓延した煙の中で避難行動を取る「煙中体験」など、各災害の疑似体験を通して災害や防災に関心を持ってもらうプログラムを実施した。

(2) 広島市災害通訳等ボランティア研修

広島市災害通訳等ボランティアを対象に、災害時における対応を身に付け、通訳・翻訳のスキル向上を図るための研修を実施した。広島市災害通訳等ボランティアの更なる能力の向上のため、本委託業務とは別に当財団が実施する「通訳ボランティア研修」に、広島市災害通訳等ボランティアも参加できるようにした。また、広島市災害通訳等ボランティアへの登録を促すため、ボランティア未登録者であっても参加可能とした。

実施日：令和8年2月7日（土）10：00～15：50

会場：広島国際会議場3階 研修室

講師：語学研修 株式会社インターグループ 田中 妙子氏

座学研修 地域国際化推進アドバイザー

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団事務局長 勝谷 知美氏

参加者：15人（広島市災害通訳等ボランティア・通訳ボランティア登録者5人、広島市災害通訳等ボランティアの登録のみ1人、通訳ボランティアの登録者のみ6人、ボランティア未登録者4人）

内容：語学研修では、主に英語の登録者を対象とし、通訳訓練法を使った口頭練習を行うとともに、外国人市民への通訳場面を想定したロールプレイングを実施した。座学研修では、広島市における外国人市民の概況及び災害時の支援体制に関する説明を行った後、地域国際化推進アドバイザーによる熊本地震の事例をもとに災害時の外国人への支援のあり方についての講義と、災害時を想定した実践的な内容としてやさしい日本語講座と避難所巡回訓練を行った。

2 アンケートの実施結果（別紙のとおり）

（1）外国人市民のための防災研修

- ・第1回目、第2回目ともに各イベントの参加者満足度が高かった。
- ・防災についてもっと知りたいこととして、広島市では比較的発生頻度が少ない「地震」について知りたいという声が多く上がったことが印象的だった。「南海トラフ」について既に知っている参加者もあり、日本で暮らす以上地震は避けて通れないものという認識の広まりを感じる。
- ・外国人向けの防災イベントをもっと実施してほしいという声も上がっており、地域の防災訓練や防災フェアのイベント情報がなかなか外国人市民にまで届いていない現状も見える。
- ・学校や会社で防災について教えてほしいという声もあり、今後地域の様々な関係団体（教育機関や企業等）と連携していくことも必要だと感じた。

（2）広島市災害通訳等ボランティア研修

- ・研修の満足度については、語学研修、座学研修ともにほぼすべての参加者が「満足した」と回答した。語学研修は、英語のみの実施だったため、登録言語が英語でない参加者は内容についていけない様子があり、「どちらともいえない」と評価した。
- ・語学研修のロールプレイングは、普段あまり使わない単語が多く出てきて「難しかった」との回答が挙がった。単語リストを用いて一つ一つ確認することで、着実に力をつけた。
- ・大きな自然災害を経験したことがなく、災害発生時をイメージすることが難しい参加者が多いようであったが、熊本地震で実際に起こった状況について話を聞く機会は貴重で深い学びがあった。
- ・やさしい日本語講座と避難所巡回訓練は実践的な内容で、大切な情報を分かりやすく伝える工夫が必要なことを身をもって理解する機会となった。

3 課題と今後の対応策等

（1）外国人市民のための防災研修

ア 課題

- ① 地域で実施する際の広報に非常に苦労した。近隣の日本語教室はもちろん、小学校や企業等にも外国人児童・従業員にイベントのお知らせをしていただくようお願いしたが、結局地域からはあまり集まらなかった。
- ② 第1回目、第2回目もレクリエーションや体験等をメインに研修を開催したこともあり、日本語があまり理解できなくても防災について興味を促すことはできたと感じているが、それぞれの避難所への行き方や、自宅避難時の注意点、避難所での生活等、より深い知識を持ってもらうには物足りない内容であった。

イ 対応策等

- アー①外国人参加者より、外国人コミュニティに情報を流す方法が最も良いとアドバイスを受けた。実際に、第1回目の防災イベントに参加した外国人市民が、第2回のイベント情報をコミュニティ内で周知し、20名の参加者を連れてきた。今後もイベント情報をコミュニティ内に周知してくださるそうなので、引き続き連携していきたい。また、当課の他事業で関わりのある外国人市民にもコミュニティ内への周知ができる方がいれば、積極的に関わっていきたいと思う。
- アー②第1回目のイベントに関わっていただいた、古田学区の防災士より、1回の防災イベントでいざという時に避難できるようになるのは難しいというフィードバックを頂いており、可能であれば定期的に（2か月に1回等）、なるべく同じ参加者を対象に研修を実施できると良

い。定期的に開催できれば、レクリエーションや体験がメインの研修であっても確実に知識は深まるので、中長期的に見れば外国人市民の防災リーダーの育成にもつなげることができるとは思っている。次年度以降、市国際化推進課と協議したい。

(2) 広島市災害通訳等ボランティア研修

ア 課題

- ①当日の参加者は15人(定員40人)で、災害通訳等ボランティアの参加は6人のみだった。今回の避難所巡回訓練は、外国人住民の方にも参加してもらい、避難所で行う聞き取りを疑似体験できる実践的な内容だったが、参加者が少なく貴重な機会を生かしきれなかった。
- ②参加者から、避難所では指差しツールなど必要なものの用意があるのか、避難所運営側は災害通訳等ボランティアが何を用いてどのように動くか想定し、準備をしているのかという質問が挙げられた。広島市として、災害通訳等ボランティアの活動内容を具体的に説明し、どのような指揮系統で被災状況に応じて何を用いて活動するのかを、平時からボランティアが理解できる状況にしておくべきだと感じた。
- ③英語の語学研修を行ったが、ボランティアの登録言語は様々であるため、必ずしも英語の研修を行う必要はないのではないかと考える。

イ 対応策等

- アー①災害通訳等ボランティアに登録後、毎年継続して研修に参加し、情報をアップデートしていく必要性を、広島市から登録者により強く周知するとともに、災害時を想定した実践的な内容を毎年変化させながら実施できるようプログラムを検討する必要がある。
- アー②研修では、広島市から災害通訳ボランティアに対し、災害時に想定される活動内容や現時点での避難所の外国人市民受け入れに係る準備状況を具体的に説明するとともに、避難所運営者とボランティアがロールプレイング等より実践的な研修を一緒に行うことで一層の効果が期待できる。
- アー③今回はやさしい日本語講座を座学研修のなかで実施した。全てのボランティア登録者がやさしい日本語をコミュニケーションツールの一つとして学ぶ機会を研修で設けることは有益だと考える。

4 当日写真 (1) 外国人市民のための防災研修

< 1回目 >



○×クイズで回答を考える参加者



非常食パンを目掛けて走る参加者



防災借り物競争で借り物を選ぶ参加者



非常食の試食をする参加者

< 2回目 >



防災センター指導員の話聞く参加者



震度6弱の地震を体験する参加者



南海トラフについて指導員から説明を受ける様子

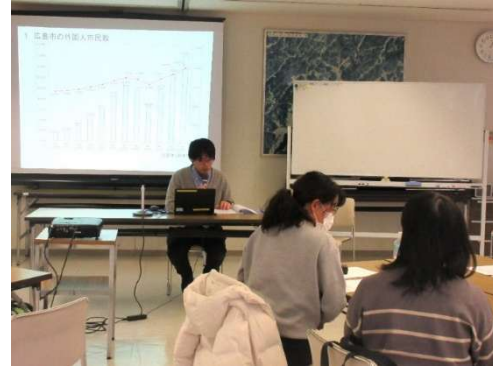


豪雨体験の様子

(2) 広島市災害通訳等ボランティア研修



語学研修の様子



広島市における災害支援体制等の説明



講演「災害時の外国人支援～災害時の外国人課題とやさしい日本語の活用～」



避難所巡回訓練